

# 準備学習ポイント一覧

科目名	神経系障害の特性と対応	教員名	桐山 希一 高尾 敏文 山本 竜也	学科/区分	理学療法 必須	履修年次	2
授業計画	回	授業項目	準備学習キーワード 使用教科書掲載箇所(ページ等)				
	1	神経系障害を生じる疾患の特徴	キーワード:脳血管障害, 脱髄疾患, 変性疾患, 中枢神経疾患以外の神経筋疾患. 授業で対象とする疾患と, どのように分類されているのかに目を通すこと. 教科書:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ, 第1章 総論, 2 中枢神経障害の概要 p.10-19				
	2	脳血管障害(1)	キーワード:一過性脳虚血性発作, アテローム血栓症, ラクナ梗塞, 心原性脳塞栓症. 教科書:病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.98-99. Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ, 第2章各論1脳血管障害の理学療法 p.26-42の脳梗塞に関する項目				
	3	脳血管障害(2)	キーワード:脳出血, くも膜下出血, もやもや病, 正常圧水頭症, 頭蓋内圧亢進, 脳ヘルニア. 教科書:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ, 第2章各論1脳血管障害の理学療法 p.26-42の脳出血関係する項目. 病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.144-147, p.172-189				
	4	パーキンソン病およびその関連疾患	キーワード:パーキンソン病, パーキンソン症候群, 進行性核上性麻痺, 大脳皮質基底核変性症. 教科書:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ, 第2章各論1パーキンソン病の理学療法 p.26-27. 病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.144-363				
	5	脊髄小脳変性症および多系統萎縮症	キーワード:多系統萎縮症, 脊髄小脳変性症 教科書:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ, 第2章各論2脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法 p.42-48. 病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.364-371				
	6	運動ニューロン疾患	キーワード:筋萎縮性側索硬化症, 上位・下位運動ニューロン障害 教科書:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ, 第2章各論4筋萎縮性側索硬化症の理学療法 p.84-88				
	7	脱髄疾患	キーワード:慢性炎症性脱髄疾患, 多発性硬化症 教科書:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ, 第2章各論5多発性硬化症の理学療法 p.102-108				
	8	末梢神経障害	キーワード:・ニューロパチー・軸索障害と髄鞘障害・ワーラー変性・脱髄・髄液検査・末梢神経伝導検査・GBS・CMT・糖尿病性ニューロパチー・Bell麻痺 参照:病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, 脳神経とその障害 p.242-283, 末梢神経とその障害 p.294-317, 症候と検査 p.548-583				
	9	脊髄疾患	キーワード:・外側皮質脊髄路・外側脊髄視床路・後索・解離性感覚障害・Brown-Séquard症候群 ・中心部障害・前方障害・Zancoli分類・ASIAスコアリングシステム・key muscle・脊髄ショック・前脊髄動脈・Adamkiwicz動脈 参照:病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, 運動・感覚・自律神経 p.190-241, 脊髄とその障害 p.284-293. Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ, 第2章 各論, 3 脊髄損傷の理学療法 p.164-237				
	10	脳腫瘍	キーワード:脳腫瘍 参照:病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.496-529				
	11	感染性疾患	キーワード:髄膜炎 参照:病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.402-409				
	12	外傷性疾患	キーワード:頭部外傷 参照:Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ, 第2章各論2頭部外傷の理学療法 p.132-141. 病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.530-547				
	13	機能的疾患	キーワード:疼痛, てんかん 参照:病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.444-474				
	14	認知症	キーワード:中核/周辺症状・変性性・脳血管性・パーソンセンタードケア 参照:病気がみえる vol.7 p.336-351; 神経障害理学療法学Ⅰ p.99-104, 110				
15	不随意運動	キーワード:ジストニア, ジスキネジア, パリズム, 舞踏運動, 振戦, ミオクローヌス, チック 教科書:病気がみえる vol.7 第2版 脳・神経, p.556-557					
教員からのメッセージ	解剖学や生理学での既習項目については「理解していることを前提」として授業を進める。準備学習の際に授業の内容を理解して、これまで既に学んだ脳や脊髄に関わる解剖学や神経生理学的な知識のうち関連する箇所については事前に予習しておくこと。						